

**事業所名** グループホーム なでしこ

日付 平成 20年 2月 9日

**評価機関名** 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 薬剤師・介護支援専門員

介護経験歴7年

**自主評価結果を見る** (工事中)

**評価項目の内容を見る**

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)**

1. 評価結果の概要

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)(記述式)

一歩外に出れば、病院・交番・銀行・郵便局・ス・パ・がある、そんな地域にたずみ、社会に溶け込んでいる施設となっています。少人数ずつですが、出来るだけ外出が出来るようになり取り組んでいます。ドライブに行くときは入居者の行きたいところを優先し、2時間くらいのドライブですが、帰りにお茶を飲んで帰るそうです。入居者が落ち着かなくなったときの対応として、家族から直接本人に電話をかけてもらいます。また家族に来てもらい、居室で話をさせていただけるように、家族との連携も取っています。

代表者の理解もあり、バリデーションの考えを取り入れて、入居者個々に対応しようとしています。今のところ週2回ですがレクリエーションをするときユニットごとに職員を1名増やしています。何か行事を開催するときにも同様に職員を増やしています。

病院が経営していることもあり、医療面には特に気をつけています。看護師である管理者の指導もあり、顔色や表情を見て異常を発見した場合は、素早く病院と連携して対応しています。

職員は普段の話し合いの中でそれぞれの想いを述べて、少しでも入居者のためになることはないかと常日頃から考えています。管理者も職員からの意見を尊重し、実行に移しているため職員は生き生きと仕事をしていました。また入居者がどのような言動やしぐさをすると不穏になるかを理解し、さらに言葉かけ・見守りをしっかり行っているため、トラブルになかなかないようです。

**特に改善の余地があると思われる点(記述式)**

経営方針が変わり職員は各自弁当を持って来るようになりました。一緒に食事はしていますが、入居者はどのように見ているでしょうか。会話の中から味の良し悪しや硬さ、大きさなどをチェックしているようですが、出来れば同じものを食べてもらって、入居者と同じ目線で観察してほしいと思います。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	「なでしこ」の職員は楽しいグループホームになるように、レクリエーションなどを通して、精神的なケアに時間を取れるようにしたいと思っています。またバリデーションを取り入れ、個々に対応するようにしています。レクリエーション(週2回)をする時間には、ユニットごとに職員を増やして対応しています。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	帰宅願望がある入居者には家族の協力をいただき、本人に電話をかけてもらいます。家族が来て居室で2時間くらい話をすると落ち着くようです。入居者の顔の表情が変わったときには、すぐに場所変えすると落ち着くようです。職員は入居者と会話をする中でよく観察しています。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	・自分のお金を居室にある金庫に入れて保管している方がいます。部屋に入るときには掃除や着替えを取りに行くときでも必ず職員2人で入るようにしています。また居室にはドアを開けても覗かれないように、のれんをつけている方もいます。他人が居室に入ることを嫌がる方もいるので、居室の掃除は本人にお願いして、職員は見守りをしています。 ・職場体験で30名ほどの生徒が来たとき、教員をしていた男性は元気がなくなり、昔を思い出していたそうです。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	居室内での転倒が多くあるようです。見守りの仕方やその他の原因を考え、ベッドのそばにあるマットがずれないように工夫しました。決まったしぐさや言動があるとトラブルになることが分ってきたので、それぞれのサインを見逃さないように職員間で徹底しています。 また介護度が高くなり、車椅子の方が多くなってきたので畳のスペースはやめ、フローリングにしました。テーブルや椅子を置き、トラブルになりそうな方々を離して座らせたりして対応しています。身体機能を維持するため、週2回職員を増やしてレクリエーションをしています。頭を使うもの、体を使うものなど工夫して行っています。		